

平成 29 年技能伝承および IT の活用に取り組む企業の好事例発表・意見交換会

1. 日 時 平成 29 年 11 月 8 日（水）14:10～16:10
2. 会 場 サンセール盛岡 大ホール
3. 参加者

座長（取りまとめ役） 独立行政法人岩手県工業技術センター
理事兼ものづくり技術総括部長 鎌田 公一 氏
技能伝承および IT 活用生産性向上好事例発表・意見交換企業

- ①株式会社システムベース 代表取締役社長 青柳 秀夫 氏
- ②株式会社ニュートン 代表取締役社長 田面木 哲也 氏
- ③有限会社二和木材 代表取締役社長 小笠原 清貴 氏
- ④武藤工業株式会社東北事業所 所長 千葉 繁樹 氏

聴講者 25 企業・団体等 140 名

4. 技能伝承に取り組む企業の好事例発表

好事例発表 ①株式会社システムベース 代表取締役社長 青柳 秀夫 様

パワーポイントにより、会社概要の説明。 (<http://www.systembase.co.jp/>) 参照

主業務 ①システムインテグレーター ②データセンター。

製造業界への提案 → 画像処理

業界での技術開発がはやく、資格取得した時点で次の資格ができるという業界。

先輩が後輩を指導できない。対応；社内セミナー開催（5-8 回/月）、試験（1 回/2 か月）

伝承できるもの → ユーザーに対するコミュニケーション手法（人的関係）

社内では、見える化（数値目標）

働き方改革 4 から残業 0 取り組んでいる。未達成

育児休暇取得；100% 6 名取得



好事例発表 ②株式会社ニュートン 代表取締役社長 田面木 哲也 様

パワーポイントにより、会社概要の説明。 (<http://www.newton-ltd.co.jp/>) 参照

プラスチック成形 → 金型 タイ・フィリピン工場あり。(中国からは撤退)

言葉の問題 → 見える化 → マニュアル化…それでも不良出 → 技能力
製造工程 → 自動化 自動化進んでいるが、入社 1・3・5・7 年経過するとその経験年数に応じ壁にぶつかる傾向ある。→ 全国的展示会等に参加させ、学習の場を得ている
製造コストを考え画像処理（ロボット）を導入し、なかなかうまくいかないところは、先輩からの技の伝授で解決。

頼りになる技術集団を目指し、

難しそうな仕事を取ってくる → ・研究対応 ・技術、技能の上達

技能を冷静に分析する必要あり

何をどうするか どういうふうになぜ岩手なのか
世の中が何を要求しているのか ←→ すべての社員が考えるように



好事例発表 ③有限会社二和木材 代表取締役社長 小笠原 清貴 様

パワーポイントにより、会社概要の説明。 (<http://www.uni4m.or.jp/public/companies/186>)

数十年～数百年をサイクルでの仕事（造林・素材生産・製材・チップ製造）

技能＝その場で簡易に判断する能力と位置付け、納得（頭・体）し仕事をするため

ものづくりマイスター・工業技術センター → 技術指導・支援

IT化

全工場内カメラ → 作業工程の標準化

技能の育成 → 管理者が把握・管理すべきもの（事業のオペレーション）

伝承 → 記録（IT活用） → 分析（取捨選択） → 勘所をつかむことができる



好事例発表 ④武藤工業株式会社東北事業所 所長 千葉 繁樹 様

パワーポイントにより、会社概要の説明。[\(http://www.mt-k.com/\)](http://www.mt-k.com/) 参照

技能の伝承

技能検定受験 → 合格(箔付け)

仕事柄（金属熱処理）現場での目視による判断。要素試験での対応でいいのか？
金属熱処理の正解がわからない・・・記録を残す（IT技術を通しマニュアル化）
ユーザーに喜ばれる製品を納品したときの、気持ちの持続



5. 意見交換（パネルディスカッション）では次のような意見が聞かれました

- 技能・技術の継承は事業をオペレートする管理者の責務
- 技能を人間のもつ技を發揮する能力とするなら、發揮する環境の整備・維持が必要
- 技術開発の急な業種ではユーザーに対するコミュニケーション手法の教育が主
- 目視が主要な判断手段の業界では、技能検定に要素試験が導入されたことに対する意見があった。
- 廃材を活用し、商品化の検討をものづくりマイスターの指導のもと実施
- 技能検定制度の活用による処遇の向上
- 他



6. ITを活用した生産性向上の取組みを実施する企業の好事例発表

好事例発表

- ①株式会社システムベース 代表取締役社長 青柳 秀夫 様
- ②株式会社ニュートン 代表取締役社長 田面木 哲也 様
- ③有限会社二和木材 代表取締役社長 小笠原 清貴 様
- ④武藤工業株式会社東北事業所 所長 千葉 繁樹 様

- ①ISO27000 取得している業者として、製造業者への提案として、画像処理を利用した製造工程の分析関を薦めたい
- ②自動化 → レベルアップ → 社員のモチベーションアップ
ITを活用（ロボット導入） → まだまだ発展途上である
- ③全工場内カメラ → 作業工程の標準化実施
- ④IT活用
 - 金属熱処理温度管理
 - ・集中温度管理システム構築
 - 製品預かり伝票作成
 - ・スマートフォンの活用

インターネット活用事務処理の効率化

テレビ電話（会議に利用）

・ 本社（神奈川県） ←————→ 東北事業所（北上市）

女性社員在宅勤務可能 今年度から導入

・ 検証の要あり



7. ものづくりマイスターがITを活用して生産性向上等に資する実技指導を行った事例

ITを活用しての指導依頼はなかった。

製造業へのものづくりマイスター派遣は2企業で下記指導実施

●機械加工の現場で主力となっているNCの原理・基礎を指導し、NCを使いこなす技術力を向上させた。

●放電加工の概要を質疑応答形式で指導した。

放電加工における加工現象と加工条件・放電加工中の電圧、電流波形とパルス幅、休止時間との関係・銅電極とグラファイト電極での加工量と電極消耗量の相違点とグラフの見方等

8. 意見交換（パネルディスカッション）では、次のような意見が聞かれました

○座長

以前からあったが、職場からのデータの持ち出しはできない。セキュリティーについての現状は

・ 在宅勤務可。本人との文書の交換にとどまっている。

・ 持ち歩き可の個人用端末にデータはいれていない。

どこまでのレベルを考えるかで、それは各社の判断

○会場にお見えのユーザーさんから、良い音のでる金属熱処理を相談されたが、勘を頼りに繰り返し試験し、満足いただけるものを完成させた。正に技の領域

従業員の平均年齢 40歳代

若い従業員 → 仕事がわかる（工技センター活用） → やりがいい



9. 全体総括（座長まとめ等）

○少子化・高齢化での技能伝承

社会のあるべき方向 ←————→ 人ありき

○技能

技術を支える考え・巧・上手さ・手並み

伝承

維持 ———→ 体系化

○三社さんには、すでに IT を広く活用されている状況の発表をいただきました。

（検査工程へのロボットの導入、作業工程の画像分析、テレビ電話活用）

ご参会の皆様には国が実施しています「若年技能者人材育成支援等事業」を活用されますようお願いいたします。

＜作成要領＞

技能伝承に取り組む企業の好事例発表及び意見交換会の報告書の作成について

技能伝承に取り組む企業の好事例発表及び意見交換会（以下「技能伝承意見交換会等」という。）の報告については、ITを活用した生産性向上の取組みを実施する企業の好事例発表及び意見交換会（以下「IT活用生産性向上意見交換会等」という。）を同時開催した場合には、上記の雛形を参考にご作成願います。

技能伝承意見交換会等とIT活用生産性向上意見交換会等を別々に開催した場合には、適宜、上記雛形を利用・参考にしながら、二つのファイルに分けてご作成願います。

技能伝承意見交換会等とIT活用生産性向上意見交換会等を同時開催した場合、

- ・全体のページ数は、A4サイズ4～6枚程度。
- ・写真は全部で4～10枚程度。

としてください。また、以下については公開しませんが可能であれば記載またはご提供ください。

10. アンケート集計結果について
11. コーナー側からの特記事項

なお、すでに作成・提出されているコーナーにつきましては、当該雛形を使用して再提出いただく必要は特段ございません。